

# インボイス制度 登録クリエイターのリアルな声をお届け

いつも大変お世話になっております。日頃より多大なるお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。

インボイス制度の開始からしばらく経ちますが、以前行ったアンケート調査にてクリエイターの皆様から「実際のところ、他の人はどう対応しているの?」「登録後の事務作業や手取りの変化が不安…」といったお声をいただきました。

そこで今回は、すでにインボイス事業者として登録されている7名のクリエイターの皆様にアンケートとヒアリングを実施し、リアルな体験談を特別レポートとしてまとめました。

本資料は、弊社から皆様にインボイス登録を強制するものでは決してございません。

皆様が抱える不安や疑問を少しでも解消し、ご自身の状況に合った「納得感のある意思決定」をしていただくための判断材料として、ご活用いただけますと幸いです。

**また本資料は弊社と契約している方々向けに作成した資料ですので、**

**SNS、ブログサイトなどインターネットへのアップロード、お知り合いや所属組織への共有などはお控えいただきますよう、何卒よろしく願いいたします。**

今回快くアンケートとヒアリングにご協力いただいた皆様、貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

# インタビューから見た！インボイス登録・5つの本音

体験談のご紹介に先立ち、今回ご協力いただいた7名のお話から見てきた「全体的な傾向」をご紹介します。

## 1 登録の決め手は「取引先への配慮」と「将来への備え」

法人クライアントとのスムーズな取引継続や、未登録による案件減少・単価交渉のリスク回避を理由に挙げる声が多く見られました。「プロとしての信頼感につなげたい」という前向きな意識も登録を後押ししています。

## 2 事前の準備や手続きは「専門家」と「ネット」でスマートに解決

税理士に一任した方や、事前に無料相談を活用して不安を払拭した方が複数いらっしゃいました。ご自身で対応した方も、YouTubeの解説動画や国税庁のサイトを数日確認する程度で、手続き自体に大きな手間はかかっていないようです。

## 3 懸念されがちな「事務処理」は、ツール活用等で乗り切れる

会計ソフトや運動アプリを利用することで、消費税の計算や適格請求書の発行が自動化され、実務的な負担をほとんど感じていないという声が目立ちました。

## 4 手取り減少への対策は「2割特例」の活用がスタンダード

消費税の納税負担軽減策として、回答者の多くが「2割特例」を活用しています。これを機に経費管理を見直したり、「売上を増やさねば」とご自身の発奮材料にして経営意識を高めたりするきっかけにしている方もいます。2割特例については、こちらをご確認ください。

[https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice\\_2tokurei.htm](https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice_2tokurei.htm)

## 5 最大のメリットは「心理的ストレスからの解放」

「インボイス未登録だから…」という後ろめたさや、売上1,000万円を超えないための調整が不要になり、堂々とプロとして営業や請求ができるようになったという精神的なメリットが大きく挙げられました。

▶ **次ページより、クリエイター7名それぞれの「リアルな体験談」をご紹介します！**

# フォトグラファー Aさん（40代・キャリア16年）

登録時期：制度開始時（2023年10月～）

## Q.登録を決めた理由は何ですか？

取引先への配慮と、自分自身の「経費に対する意識」を高める必要性を感じたからです。登録に迷いはありませんでした。「もし不都合があれば取り消せばいい」というくらいの気持ちで、まずはやってみようと考えたんです。むしろ、登録していないことで「取引できない」という事態になるのを避けたかったですし、売上をさらに上げたい、取引先を増やしたいという意識が強かったため、制度開始に合わせて発行できるよう準備しました。

## Q.登録前後の準備やリサーチにどのくらい時間をかけましたか？

元々、確定申告などの経理作業は自分で行っていたので、リサーチや準備に特段時間はかかりませんでした。主にYouTubeの税理士さんの解説動画を見て、制度の概要を1週間程度かけて理解したくらいです。また、独立して青色申告に切り替えたタイミングで、1年間無料で税理士さんのサポートを受けられる機会がありました。その時に「計上できる経費」や「会計ソフトの使い方」をしっかりと教わっていたことも、スムーズに導入できた大きな要因だと思います。

## Q.事務処理の負担は、実際にやってみてどうですか？

私が利用している会計ソフトは、消費税の読み込みから計上まで自動なので、手間を感じることはほぼありません。一度体制を整えてしまえば何も身構える必要はないですし、普段から確定申告をしている方なら、きっとスムーズに対応できるはずです。

## Q.納税による「手取りの減少」と、その対策は？

正直、手取りが減ったという感覚はありません。これまで免除されていたものが本来の形に戻っただけだと捉えていますし、現在は「2割特例」などの負担軽減措置もあります。この特例期間のうちしっかり売上を作っていこうという前向きな気持ちです。

むしろ登録せずに案件を逃すリスクに比べれば、納税の負担は決して高い壁ではないと感じています。

---

## Q.登録して良かったと感じる点は？

「事業主」としてお金を正しく管理する良い機会になりました。経費への意識が格段に高まり、お客様との雑談で使った費用なども、仕事に関わる費用をより注意深く精査し、適切に計上するようになりました。また、最近是新規のクライアントから必ずと言っていいほど登録の有無を確認されます。登録しているだけで「プロとしての備えがある」という印象を与えられ、それがダイレクトに信頼に繋がっていると実感しています。

---

## Q.周りのクリエイター仲間ではどのような動向が多いですか？

私の周りのフォトグラファーやライターは、ほとんどが登録済みです。中には「仕事の受注に影響が出た」と実感してから、慌てて登録した人もいますね。

全体としては、取引先の意向に従って登録する方が多い一方で、やはり経理の流れが変わることに抵抗や戸惑いを感じている方も少なくない印象です。

---

## Q.登録を悩んでいる方へアドバイスをお願いします。

新しいシステムへの戸惑いはあると思いますが、会計ソフトなどを活用すれば事務的なハードルは驚くほど低いです。

また、自分だけでなく「相手側」の視点も重要です。非登録のままだと取引先の経理担当者にかかなりの作業負担を強いることになります。「本当に現場は大変なんです」という切実な声を聞くこともあり、案件を継続的に受ける上では、登録なしでは厳しい時代になっていると強く感じます。

まずは事務負担を減らせるツールを導入し、自分の事業の数字を直視する体制を整えることから始めてみてはいかがでしょうか。

## ライター Bさん (40代)

登録時期：2023年10月～

### Q.登録を決めた理由は何ですか？

取引先から「登録事業者でないと、今後の取引が難しくなる」との連絡※が複数社からあったため、正直なところ「仕方なく」登録を決めました。売上が1,000万円をギリギリ超えていない状態。課税事業者になる予定はもともとなかったのですが、登録前は1,000万円を超えないよう調整が必要なおもりましたが、課税事業者になるいい機会だと受け止め、インボイス登録を決心しました。

※この連絡は弊社ウィルゲートからのものではありません。

### Q.登録前後の準備やリサーチにどのくらい時間をかけましたか？

国税庁のサイトなどを見て2～3日検討しました。特に本などは購入せず、ネットで少し調べる程度で手続きなどは簡単でした。国税庁のサイトから必要情報を入力するだけで、簡単にインボイスの登録は済みますし、登録前後で特に面倒な準備は必要なかったです。

私の場合は法人化する選択肢もあり、インボイス制度とは別で税理士さんに相談してもらいました。法人化することで新たに納める税金や社会保険料などを教えてもらい、1番手取りを減らすことなく事業を継続できるベストな方法を提案してもらえたと思っています。

### Q.事務処理の負担は、実際にやってみてどうですか？

会計ソフトを使っているので、インボイス対応の設定はそこまで難しくなかったです。もともと使用していた会計ソフトと連携した請求書発行アプリを使用すれば、アプリ内にチェックを入れるだけで自動的に形式が整うため、適格請求書の発行も難しくありません。事務処理の手間という意味では、特に感じていないですね。

### Q.納税による「手取りの減少」と、その対策は？

2割特例を活用しています。確定申告で消費税を一括納付する際は、正直「こんなに納めなければいけないのか…」という気分です。もともと経費は抜け漏れがないよう、しっかり計上することを心掛けていたので、今後も継続して利益をコンパクトにするよう気を付けようと思っています。2割特例が終了した後は簡易課税制度（第5種）を利用しようと思っていますが、基本的には手取りの減少に関して、講じる策があまりないというのが正直なところではあります。

---

## Q.登録して良かったと感じる点は？

これまで同様に取引先とビジネスができています。加えて、以前は売上が1,000万円を超えないよう、取引先に請求月を調整してもらうなどの手間が発生していましたが、そういった調整が不要になりました。そのため、年間の売上を気にせずどんどん受注して売上を伸ばしていけるようになりました。また、新規案件の打診時に登録の有無を聞かれた際も、スムーズに回答できるため、取引先の事務的な懸念を払拭できていると感じます。

---

## Q.周りのクリエイター仲間ではどのような動向が多いですか？

私の周りではほとんどの方がしぶしぶながら登録されています。「1年間は様子を見る」と言っていた方も、取引先の方針に沿う必要に迫られて、インボイス登録をしていました。特に私と同様に取材系のライティングをされている事業者はほとんどの方が登録していますね。

---

## Q.登録を悩んでいる方へアドバイスをお願いします。

登録前後の準備や事務処理における手間はほとんどありません。売上が1,000万円のラインを行き来しているような方に対しては、登録してしまえば収入を1,000万円未満に抑える調整が不要になるため、かえって気が楽になるかもしれません。ただし、売上が安定せず、一時的に1,000万円を超えそうな年がある程度の場合は、手取りを優先して未登録のまま様子を見るのも一つの選択肢だと思います。

# フォトグラファー Cさん (60代)

登録時期：2025年

## Q.登録を決めた理由は何ですか？

「信頼できる」と顧客に認識してもらえるのではないかと、期待したからです。具体的に特定の案件を想定していたわけではありませんが、将来の収入減少への危機感もあり、登録に至った形です。カメラマンは品質が重視されることもあって、取引先からは「インボイス登録の有無は関係ない」といわれましたが、登録したことで喜んでいただけたのも事実です。

## Q.登録前後の準備やリサーチにどのくらい時間をかけましたか？

とくに事前リサーチはせず、税務署に相談しました。2時間程度だったと思います。お話を聞くなかで「税務上、これだと損かも…」といわれた部分もありますが、事務処理が苦手であり作業時間も取れないため、損得ではなく簡単にできる方法を教えていただきました。

## Q.事務処理の負担は、実際にやってみてどうですか？

初年度なのでこれからです。正直なところ、確定申告を控え不安はあります。年度途中で登録したこと、また海外での活動もあり、確定申告については税務署にLINE予約し、相談しながら進める予定です。これから登録する人は、決算月に合わせると事務処理しやすいと思います。ただ、初めは大変だと思いますが、毎年のことなのでだんだん慣れてくるのではとも考えています。

## Q.納税による「手取りの減少」と、その対策は？

コロナ禍をきっかけに地方に移転し、仕事量も減った中で手取りの減少は厳しいと感じます。今年度は「2割特例」を適用する予定です。物価高で機材や消耗品も値上がりしていますが、プロとして品質を落とさないよう、機材購入や取材時の身だしなみへの投資は妥協していません。出張旅費など削れない経費も多いため、日々の生活で工夫を凝らしています。クライアントや撮影現場の皆様喜んでいただけることが原動力なので、プロとしての必要経費と割り切って努力しています。

---

## Q.周りのクリエイター仲間ではどのような動向が多いですか？

個人では「今後に期待したい」という理由から、多少負担でも登録したほうがいいかなという感じです。

---

## Q.登録を悩んでいる方へアドバイスをお願いします。

インボイス登録後、初めて確定申告をする身なので参考になるか分かりませんが、色々な考え方があると思います。途中で登録の変更もできるため、まずは自身が思う方向で実践してみるのも良いのではないのでしょうか。

## ライター Dさん（40代）

登録時期：2024年

### Q.登録を決めた理由は何ですか？

2022年頃から税理士にお任せしていますが、担当の税理士からインボイスの案内があったのがきっかけです。個人的にも制度として決まったのなら登録しておくべきだと考えました。フリーになった段階で「自分の身は自分で守る」という意識のもとで活動してきましたので、制度が開始したのに税を払っていないという状況は心理的にも避けたかったです。「払うべきもの」というスタンスだったので、登録しないという選択肢はありませんでした。

### Q.登録前後の準備やリサーチにどのくらい時間をかけましたか？

登録以前より税理士をつけていたので、完全にお任せしました。そのため、手間はかかっていません。

### Q.事務処理の負担は、実際にやってみてどうですか？

すべて税理士にお任せしているので、請求書に登録番号を追記する以外に手間はありませんでした。

### Q.納税による「手取りの減少」と、その対策は？

「2割特例」を活用しています。確かに前年と同じ売上であれば、インボイス登録前より手取りは減ります。ただそれをネガティブに捉えるだけではなく、「売上を増やさねば手取りが減る」という危機感を、自分への発奮材料にしています。

---

## Q.登録して良かったと感じる点は？

インボイス登録を前提としてお仕事をいただけているのが分からないので、直接的なメリットは特に感じていません。ただ、インボイスの登録状況を取引先から尋ねられる機会は多いため、そのたびに気をもむ必要がないという点では登録しておいて良かったのかなと思います。

---

## Q.周りのクリエイター仲間ではどのような動向が多いですか？

既に登録している人、しないとはっきり決めている人に分かれています。登録を迷っている人は少ない印象です。登録しないという選択をした人は、収入減少への懸念や登録するメリットを感じないという理由が多いように思います。

---

## Q.登録を悩んでいる方へアドバイスをお願いします。

私の場合、完全に税理士に任せてしまったので、インボイスの登録や確定申告等をすべて自分でやる場合のアドバイスは何とも言えません。

## フォトグラファー Eさん (50代)

登録時期：制度開始時（2023年10月～）

請求書発行：2024年3月～

### Q.登録を決めた理由は何ですか？

登録しないと将来的に案件が減る可能性が考えられたためです。実は制度開始前から登録自体は済ませていました。しかし、当時は多忙な時期と重なっていたこともあり、制度が始まって「登録はしているけれど、適格請求書を発行する準備ができていない状態」でした。そんなとき、親しい企業との取引で「適格請求書がないなら1割ほど金額を引く※」というシビアな提示を受けたことがありました。これには驚きましたし、「すぐに対応しなければ」という強い実感が湧き、急いでフォーマットを整えて本格的にインボイス事業者としての活動をスタートさせました。

※この発言は弊社ウィルゲートからのものではございません。

### Q.登録前後の準備やリサーチにどのくらい時間をかけましたか？

事務作業に苦手意識があったので、まずは本を2冊購入して制度を理解することから始めました。あわせて周りのフリーランス仲間にも相談し、自分の状況なら登録すべきかどうかをじっくり検討しました。リサーチにはトータルで丸2日ほど時間をかけ、納得した上で手続きに進みました。

### Q.事務処理の負担は、実際にやってみてどうですか？

一番不安だったのが事務作業です。インボイス登録自体は簡単でしたが、登録番号や源泉徴収の数式を入れた請求書フォーマットの作成には、なかなか着手できずにいました。ですが、いざやってみるとネットのフリー素材を活用することで、案外スムーズに形にできました。会計ソフトなど使っていないので、消費税申告の作業には丸2日ほどかかっていますが、一度慣れてしまえば「毎年の恒例行事」として許容できる範囲だと感じています。

### Q.納税による「手取りの減少」と、その対策は？

実は、インボイス登録後に手取りが減ったという認識はありません。登録を機に、これまで上乗せできていなかった取引先へも、当然のこととして請求するよう切り替えたからです。既存の取引先とも消費税分について交渉し、概ね承諾いただけたため、トータルでの手取りはそこまで減っていません。納税額を抑えられる「2割特例」を活用していることも、負担軽減に大きく役立っています。

---

## Q.登録して良かったと感じる点は？

取引先からの信頼が得られていると実感できたこと、そして堂々と請求書を出せるようになり、プロとしての自信が増したことです。迷いなく請求書を出せるようになったのは精神的にとても大きかったですね。もし登録していなければ、仕事のオファーが減ったり、減額されたりといった「機会損失」の方が大きかったのではないかと感じます。そうした不安から解放されたことも、登録して良かったと感じる点です。

---

## Q.周りのクリエイター仲間ではどのような動向が多いですか？

自営業の友人やカメラマン仲間は、ほとんどが登録していますね。やはり取引先との関係維持を考えると、登録せざるを得ないという声が多いです。

一方で、個人のお客様がメインの美容師さんなどは、登録せずに様子を見ているケースも見受けられます。取引先が企業なのか個人なのかによって判断は分かりますが、やはりビジネスとして関係性を重視する人は、早めに動いているなという印象です。

---

## Q.登録を悩んでいる方へアドバイスをお願いします。

事務作業の手間は確かに増えますが、実際にやってみると、それ以上に「得られる信頼と安心感」には大きな価値があると感じています。

むしろ怖いのは、登録していないことで単価を下げられたり、案件の候補から外れたりする「目に見えないリスク」です。より信頼されるプロを目指すなら、一歩踏み出してみる価値は十分にあると思います。

# ライター Fさん（40代・フリーランス歴8年）

登録時期：2024年に登録

## Q.登録を決めた理由は何ですか？

クライアントへの負担を減らすためです。私の場合は契約しているクライアント数が7~8社と比較的多く、定期的に新規契約先を探しています。そのため、適格請求書発行事業者になることで、取引先との契約が取りやすくなるのではないかと考えました。

また、インボイス制度の開始に伴い、大手のクライアントを中心にインボイス対応に関する調査が送られてきたことも理由の一つです。それによって契約更新の可否を決定するという内容ではなかったものの、クライアント側がインボイスの登録状況を気にしている様子がわかりました。登録したことで、仕事を続けるうえでの心理的な負担がなくなったのも大きな点です。別の観点ですが、自身の売上1000万円突破に向けたモチベーションにもなっています。

## Q.登録前後の準備やリサーチにどのくらい時間をかけましたか？

私の場合、インボイス制度に関連する記事の執筆を制度開始前から複数依頼されていました。執筆を通じて事前に知識を得ていたため、自分自身の準備やリサーチにはほとんど時間を割いていません。

## Q.事務処理の負担は、実際にやってみてどうですか？

事務処理の負担はさほどありませんでした。ただし、消費税の納税に関する書類を作成した際に不備があり、後ほど税務署から通知がきたという経験があります。そのときは追加納税をしました。実務については、慣れるのに若干時間がかかるかもしれません。

## Q.納税による「手取りの減少」と、その対策は？

2割特例を活用しているため、さほど大きな打撃にはなっていません。ただし、軽減措置がなくなった後は心配な面もあります。

新たな取引先を見つけることで、収入を増やそうと考えています。

---

## Q.登録して良かったと感じる点は？

心理的な負担がないことが最も大きいです。既存クライアント、新規クライアントいずれも気を使うことなく話をすることができます。

私の場合は政治に関する記事の執筆を依頼されることも多く、政府の税金の使い道やインボイス制度の是非について、気負うことなく自らの主張・考えを書けるという点でも登録した意義は大きいと感じています。

---

## Q.周りのクリエイター仲間ではどのような動向が多いですか？

収入が多い、少ないで分かれている印象です。収入の多い人の方が進んで課税事業者になっています。副業で収入を得ている人はあまり積極的に登録はしていないようです。

---

## Q.登録を悩んでいる方へアドバイスをお願いします。

もし、クライアントに対して少しでも負い目を感じるのであれば、インボイス制度への登録をおすすめします。この制度は収入におけるメリットは無いに等しいと言えますが、登録することでフリーランスがクライアントと対等に話ができることは何より大きいと感じるからです。

特に新規の取引先の開拓に力を入れている人は、登録を前向きに検討するべきだと言えるでしょう。よほど専門的な知識や能力がない限り、免税事業者と課税事業者を天秤にかけて、クライアントが免税事業者との取引を決断するとは考えられないためです。

## フォトグラファー Gさん (40代)

登録時期：2023年10月～

### Q.登録を決めた理由は何ですか？

クライアントの多くが企業だったため、制度開始に合わせて登録しました。インボイスに登録しないことで、「これまでお取引していた企業さんと請求書などの手続きや、やりとりにわずらわしさが生じたらいやだな…」と思っていました。手取りの減少などに多少不安はありましたが、インボイスに登録することで、クライアントとこれまで通り、お互いのストレスなくスムーズにやりとりをしたかったので登録を決意した形です。

### Q.登録前後の準備やリサーチにどのくらい時間をかけましたか？

普段からお世話になっている税理士さんがいるので、わからないことは全て税理士さんに聞きました。インボイスの登録にかかる手続きも税理士さんに全てお願いしたので、特に難しいことや手間などはなかったです。事務処理についても「大きな変更や複雑な計算は不要」と事前に確認できていたため、大きな不安なく導入を迎えられました。

### Q.事務処理の負担は、実際にやってみてどうですか？

適格請求書の発行はインボイスの登録番号を入力するだけなので、インボイス登録前と後で特に事務処理の負担が増えたとは感じていないですね。一方で、インボイス未登録の事業者を外注する際に、請求書のやりとりが面倒になったと感じています。自分でフォトスタジオをやっている関係で、スタジオ撮影の際に依頼しているアシスタントさんやヘアメイクさん、衣装レンタルなどはフリーランスの方に外注しています。そういった方は個人相手の商売をされているケースが多いので、未登録の方も少なくありません。そういった免税事業者との請求書のやりとりが少々複雑でわずらわしいと感じています。

### Q.納税による「手取りの減少」と、その対策は？

特例を活用しつつも4月にドンとまとまった納税額を払わないといけないのは正直きついです。特に具体的な対策は行っていませんが、前もって納税用に貯めておかないと思っています。現状は2割特例を活用しており、その後は簡易課税制度（第5種）を活用する予定です。

---

## Q.登録して良かったと感じる点は？

正直なところ、納税した分に対する国からの恩恵などは実感しにくく、直接的なメリットは感じていません。ただこれまでお取引のあったクライアントと、変わらずにやりとりできているのはインボイスに登録したおかげだと思っています。先方の請求書発行時に面倒なやりとりが発生しないので、お互いストレスなく取引を継続できていると感じています。

---

## Q.周りのクリエイター仲間ではどのような動向が多いですか？

私の周りで同じように企業を相手にしているフォトグラファーは、ほとんどがインボイスに登録しています。とはいえ、フォトグラファーなら誰もがインボイスに登録しているというわけではなく、「何を撮っているか」「誰がクライアントか」によって、判断がはっきりと分かれている印象です。個人を相手にしているフォトグラファーは、インボイスに登録していないという方もけっこういます。

---

## Q.登録を悩んでいる方へアドバイスをお願いします。

ネットや本で色々調べるより、まず税理士さんに直接相談するのが早いのではないかと思います。税理士さん界隈の情報もあるようで、「〇年後には制度がこういう風になるらしいよ」など、直接話を聞かないと教えてもらえないこともあります。ご自身が普段からお世話になっている税理士さんでもいいですし、そういった方がいない場合は、税理士さんの無料相談会などもあるはずですよ。

今の収入や、どういったクライアントを相手にしているか、どういった事業を行っているのかなど、具体的に自身の状況を伝えることで、その人に合った対処法を覚えてもらえると思いますよ！実際に私が税理士さんに相談した際も、「クライアントに企業が多いなら登録してみてもいいんじゃない？」程度で、特別インボイスの登録をすすめられたわけではありません。その人が一番損せず、ストレスなく事業を継続できるベストな方法を提案してくれるのが税理士さんだなと思っています。

## 編集後記

インボイス制度が始まり、多くのフリーランス・クリエイターの皆様が「自分はどうすべきか」と悩み、立ち止まったことと思います。税金や事務作業の制度変更は複雑で、相談する相手もおらず時に孤独を感じることもあったのではないのでしょうか。

今回、7名の先輩クリエイターの皆さんが語ってくれたのは、単なる「手続きの体験談」ではなく、プロの事業主として悩み、決断し、前に進むためのリアルな軌跡でした。

クリエイターの数だけ、働き方があり、生活があります。「正解」は決して一つではありません。登録をして事業主としての意識を新たに前へ進む決断も、今のスタイルを守りながら自身のペースで様子を見る決断も、どちらも尊重されるべき大切な答えです。

私たちが本レポートでお伝えしたかったのは、皆さんが孤独に悩む時間を少しでも減らし、ご自身にとって一番納得のいく選択をするための「道しるべ」になればという想いでした。

ウィルゲートは、皆様がどのような道を選んだとしても、素晴らしいコンテンツをともに創り上げる大切なパートナーとして、これからも伴走していきたくと願っています。

コンテンツ制作業界が大きく変わるなか、本レポートが、皆様のこれからの活動をより良くするための、一つのきっかけとなれば幸いです。

**株式会社ウィルゲート**  
コンテンツマーケティング事業部  
Webコンテンツグループ